

ひったくり対策

ひったくりは、主に女性をねらう極めて悪質な犯罪です。被害に遭わないためには、「ひったくり被害に遭うかもしれない」という意識を持って、バッグの持ち方、歩き方の対策を実践しましょう。

ひったくりにねらわれやすい人とは…

- ・バッグを車道側に持って歩いている人
- ・自転車カゴにバッグを入れ、ひったくり防止ネットなどを付けずに走行している人
- ・歩きながら携帯電話でメールや通話をしたり、イヤホンで音楽を聴いているなどして、周囲を警戒していない人
- ・現金を下ろして金融機関などから出てきた人



ひったくりは、ちょっとした心掛けで未然に防ぐことができます。被害に遭ってからでは遅いので、次の防犯対策を行って被害に遭わないように気を付けましょう！

ポイント1 【徒歩の場合】車道側にバッグを持たない

ハンドバッグなどの所持品は、車道側（自動車やオートバイなどが通行する側）に持っているとう簡単にひったくられてしまいます。車道と反対側（建物側・壁側）に持つ、胸にしっかり抱える、ななめ掛けにするなど、持ち方を工夫しましょう！



ポイント2 【自転車の場合】ひったくり防止カバーなどを使用する

自転車のかごに「ひったくり防止カバー」を付けることで、被害を防ぐことができます。また、雑誌などをカバン、ハンドバッグの上に置くだけでも、効果があります。



ポイント3 バイク音に注意

- ・ひったくりは、オートバイ・自転車で追い越しざまにひったくるケースがほとんどです。後方からの**バイク音**には、立ち止まって振り返り確認するなど、警戒するようにしましょう。
- ・人通りの少ない道路を歩く時は、誰か自分の後をつけていないかなど、周囲にも注意しましょう。特に暗くなってからの一人歩きは、非常にねらわれやすいので気を付けましょう。また、歩きながら携帯電話でメールや通話をしたり、イヤホンで音楽を聴いていると、注意が散漫になることから控えましょう。

置き引き対策

置き引きは、行楽地や駅、空港、電車内などでよく発生しています。ほんのちょっとしたすきに、貴重品の入ったバッグや財布が盗まれます。

「少しの間なら大丈夫だろう」という思い込みは禁物です！



置き引きは、こんなときに起こります。

- ・トイレや電話など、ちょっと席を離れたすきをねらって、席に置いてあるカバンや上着などを盗まれる。
- ・泥酔や過労で眠っている間に貴重品などを盗まれる。
- ・子どものオムツを替えている時など、何かに気を取られている間に持ち物を盗まれる。
- ・乗車券を買う時など、ちょっとバッグや財布を置いたすきをねらって持ち物を盗まれる。

ポイント1 目を離さない、手を離さない

- ・電話をする時、食事をする時など、荷物は常に視界に入るようにしましょう。また、休憩所やレストランなどで席を離れる時は、いすの背もたれにバッグを置かないようにしましょう。
- ・バッグや手荷物は、自分の体から離さないようにしましょう。荷物を床などに置かなければならないときは、自分の体に密着させ、簡単に持ち去られないように気を付けましょう。



その足もと。荷物はもう一つなかった？

車上ねらい・自動車盗対策

車内に貴重品、現金などを置かないことが車上ねらい対策の基本です。自宅敷地内に駐車する場合や、ちょっと車を離れる場合でもキーを抜き、施錠する習慣を身につけましょう。

また、施錠していても車ごと盗まれたり、部品やカーナビ、カーオーディオなどを盗られる事例も発生しています。カーアラームなどの防犯機器を活用しましょう。



ポイント1 確実なカギかけ

- 平成23年に県内で発生した車上ねらいの約6割は、施錠されていない状態で被害に遭っています。ドアロック、窓締めを徹底するだけでも、かなりの被害が抑止できます。少しの間だから…という考えは捨ててください！
- 平成23年に県内で発生した自動車盗の約7割がキーをつけたまま被害に遭っています。少しの間でもキーを抜き、施錠しましょう。また、スペアキーを車の外部に隠している車両があります。泥棒に見破られやすいので、必ず身につけておくようにしましょう。



ポイント2 車内に貴重品を置かない

特に外から見える場所にバッグなどを置いたままにしていると、ねらわれる確率が非常に高くなります。

ポイント3 防犯設備の整った駐車場を利用する

防犯カメラや防犯灯が設置されていたり、警備員が常駐又は巡回している駐車場では犯行が困難になります。

ポイント4 車庫を整備する

車庫にシャッターやサーチライトなどが設置されていると、泥棒が車に近づきにくくなります。



ポイント5 防犯機器を活用する

カーアラーム、イモビライザー、ハンドルロック、車の輪止め装置などの防犯機器を活用することで、犯行が困難になります。さらに防犯機器を併用することによって、防犯効果はより高くなります。

カーアラーム

外からの振動や、ドアを開けられたことに反応して大きな音を発する警報装置。

イモビライザー

キーに埋め込まれたトランスポンダ（電子チップ）の固有のIDコードと車両側コントローラーのIDコードを電子的に照合します。IDコードが一致しなければエンジンが始動しない仕組みになっています。不正に複製したキーを使ってもエンジンはかかりません。

ハンドルロック

キーを抜いた状態で、ハンドルが回らないよう固定する装置。

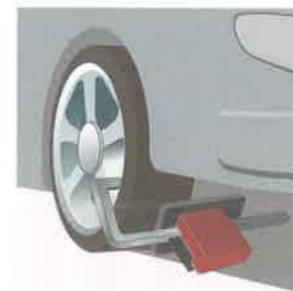
車の輪止め装置

前にも後ろにも動かせなくなり、車やタイヤの盗難を防止できます。

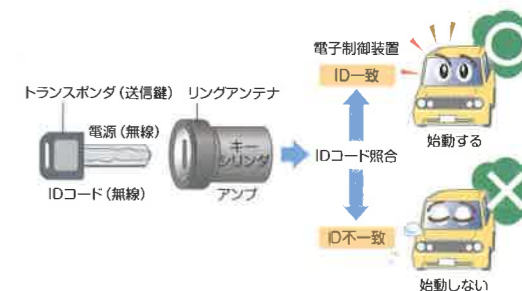
ハンドルロック



車の輪止め装置



イモビライザー



自動車の防犯チェックシート

自動車盗の半数以上が駐車場で発生！

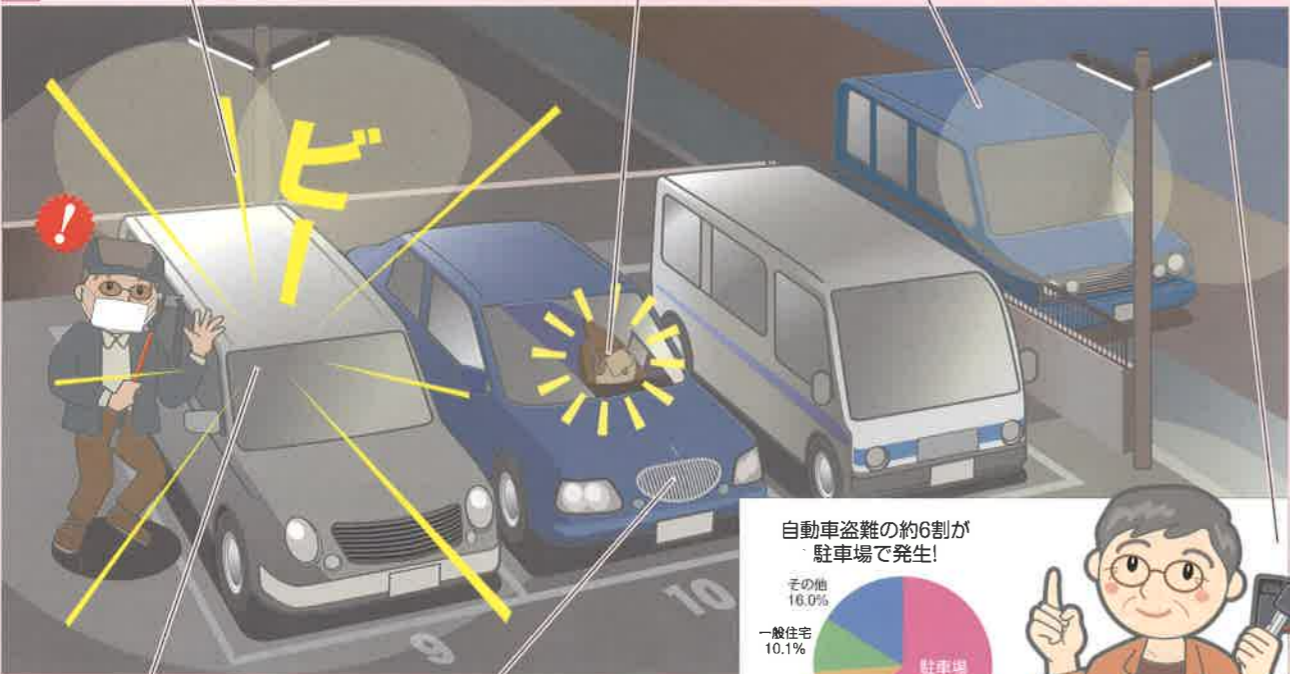
駐車場・パーキングの場合

1 見通しがよく、夜間でも明るい駐車場に停めるようにしている。

2 車内には貴重品を置かないようにしている。

3 路上駐車はしないようにしている。

4 車から離れる時は、必ずキーを抜きドアロックしている。



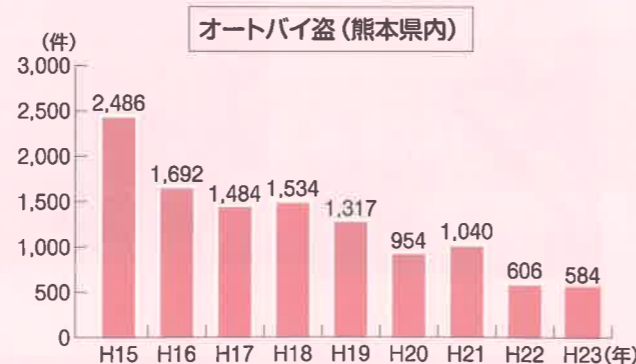
5 盗難防止機器を活用して、積極的に防衛している。

6 車を購入するときは、イモビライザー装着車を選んでいる。



自転車・オートバイ盗対策

店に立ち寄る時など、わずかな時間でも自転車のカギをかけましょう。また、オートバイのキーは必ず抜きましょう。



ポイント1 確実なカギかけ

- 平成23年に県内で発生した自転車盗の約6割は、カギをかけていない状態で被害に遭っています。カギかけを徹底すれば、かなりの被害が防止できます。
- 平成23年に県内で被害にあったオートバイの約4割が、キーをつけたままの状態です。自宅の車庫などでも、必ずキーを抜きましょう。

ポイント2 カギは複数設置する（ツーロック）

- 自転車は箱錠や馬てい錠のほか、ワイヤー錠、チェーン錠などで2重ロックを心掛けてください。2重ロックは、盗むのに時間がかかるので泥棒が嫌がります。また、防犯性能が高いシリンダー錠への交換も有効です。
- オートバイは、U字ロック、ワイヤー錠、バイク用ディスクロックなどを活用しましょう。また、補助錠は、柱などの動かないものに結び付けると、より効果的です。



ポイント3 防犯登録をする

万一盗まれても、防犯登録（オートバイの場合は「グッドライダー防犯登録」）しておけば、被害届に役立ち、自転車（オートバイ）が戻りやすくなります。全国の販売店で加入申込みができます。

ポイント4 防犯設備の整った駐輪場を利用する

防犯カメラや防犯灯などが設置されている駐輪場は、泥棒が嫌がります。

ポイント5 長期間放置しない

長期間放置すると、盗んでも構わない自転車、オートバイという意識を泥棒に持たせてしまうと同時に、放置車両が多い駐輪場は、環境が悪い、という印象を周囲に与え、被害に遭う可能性が高くなります。大切に扱い、放置しないようにしましょう。

